1 インタビュー

事業統合によりセキュリティと多様なプラットフォーム技術の密接な連携を実現

昨年7月、NTTデータ・セキュリティ株式会社と統合し、同社のセキュリティ事業を継承したNTTデータ先端技術株式会社。昨年6月に同社代表取締役に就任され、同社を率いるのは平成15年から19年につづき2度目となる三宅功氏に、今後の事業展開についてうかがった。

NTTデータ先端技術株式会社
代表取締役社長　三宅 功氏

オープン化、マルチベンダ化に対応し、最適な技術の組合せによりベストプラクティスを提供

――はじめに、昨年NTTデータ・セキュリティ株式会社と統合した御社の特長、ミッションについてお聞かせ下さい。

三宅　私どもは平成11年の設立以来、プラットフォーム技術にフォーカスし、NTTデータグループを中心に、NTTグループ、またそれ以外のSIerに向けて、プラットフォームに求められる技術を提供しています。電電公社の頃からNTTに変わった時代までは、ハードからソフトウェアまで全てを手がける垂直統合型の開発が主流でした。ところが過去20年ほどでオープン化、マルチベンダ化が進み、プラットフォームを構成するサーバやストレージ、ネットワーク機器といったハードウェアは多様化しています。また、それらのハードウェア上でオープンソース、商用を含むさまざまなOSやデータベース等のソフトウェアが動作するようになりました。これらをお客様のニーズに応じて、性能、機能、信頼性の観点から最適に組み合わせ、ベストプラクティスを提供するのが私どものミッションです。

プラットフォームを構成する要素は複雑化しており、WebサーバやHA（High Availability:高可用性）クラスタソフトウェアなどのミドルウェアも含まれます。また、Webシステムの増加に伴い、サーバサイド、クライアントサイドをつなぐようなアプリケーション開発のためのフレームワークも重要になりました。これら全てにおいてオープン化が進んでおり、セキュリティの確保も重要なミッションです。

――そうしたプラットフォームを、具体的にはどのように提供されるのでしょうか。

三宅　システムの初期設計の段階からSIerと連携してコンサルティングを行い、最適なソリューションの選定から販売、導入まで行なっています。また、保守やメンテナンスも行いますが、運用開始後はどうしても障害や性能低下といった問題が発生します。オープン化、マルチベンダ化により、どこに原因があるのかをシステムとして分析することは非常に難しくなっており、個々のプロダクトのベンダーにいきなり問い合わせることもできません。そこで私どもが問題の切り分けを迅速に行い、各ベンダーと協力して問題解決

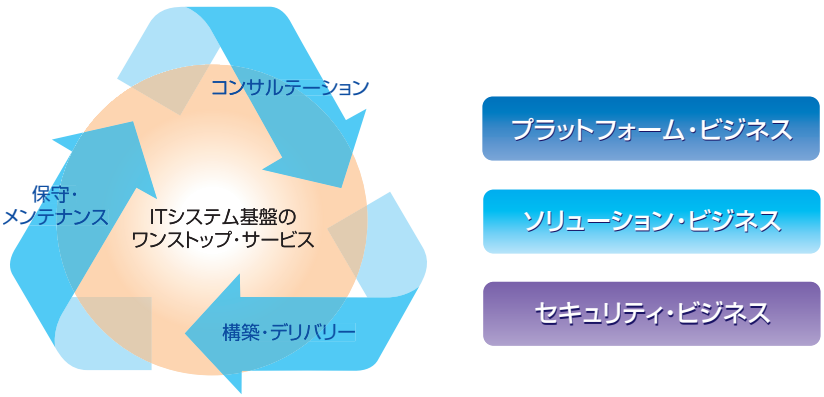

図1　NTTデータ先端技術のビジネススタイルと3つのビジネスドメイン

にあたる活動に力をいれています。特にNTTデータにはミッションクリティカルな業態のお客様が多く、より迅速な対応を心がけています。

クラウド・仮想化、ビッグデータ、モバイル、グリーン、セキュリティに注力

――今後注力される技術分野についてお聞かせ下さい。

三宅　クラウドや仮想化についてはトップバッターとして走ってきたと自負しており、今後も引き続き強化する考えです。2つ目はここ数年で注目が高まっているビッグデータです。たとえば、さまざまなログデータの管理、解析に用いられるSplunkというソフトウェアは長年取り扱っていますし、最近ではOracleのExadataやIBMのNetezzaといったビッグデータ専用アプライアンスの取り扱いも開始しています。ただしアプリケーションそのものには直接タッチしません。さまざまなパートナー企業と協業しながら、お客様が求めるビッグデータ解析基盤の動作に必要なプラットフォームを提供します。3つ目はクラウドやビッグデータに関係する部分もある、モバイルです。端末とサーバサイドを連携させる技術により、スマートフォンやタブレット端末等、デバイスごとの最適な制御やセキュリティの確保を行う取り組みを進めています。4つ目は環境・グリーンです。従来、エネルギー効率の向上を目的としたデータセンターの構築・運用技術の開発に取り組んでおり、その1つが高圧直流給電システムです。今年5月には12V直流給電による省エネ直流給電ソリューション“XECHNO Power（ゼクノパワー）”の販売を開始しました。12V直流給電対応機器としてはIBM System x3550M4、x3650M4が、日本IBMより提供されます。この分野は国内需要も大きいのですが、初めからグローバルなビジネス展開を狙っています。

5つ目がセキュリティです。昨年7月にセキュリティ会社と事業統合したのは、セキュリティとプラットフォーム技術の密接な連携を重視しているためです。セキュリティ監視や診断といったサービスは以前から提供しており、そのために必要なソリューションのラインナップ強化や、特定の対象を標的に攻撃を繰り返すAPT（Advanced Persistent Threat）攻撃への対策等を進めているところです。

複数のスペシャリティを持つ技術者集団を武器にビジネスを展開

――今後重点的に取り組まれる施策はどのようなものでしょうか。

三宅　商用のサーバ上でオープンソースのOSが動作し、Webサーバやデータベース等、さまざまな技術が密接に関係しあって成り立つのが現在のプラットフォームです。セキュリティを確保するにも、これらの技術分野全てについて深く理解している必要があります。この状況では、いくらスキルの高い技術者がいても、得意分野が1つでは対応できません。特定の分野に特化するだけではなく、1人で複数のスペシャリティを持たなければ、今後拡大する需要に対応できなくなると考えています。これまでの社内文化を変えることにもなると思いますが、3年程をかけてこのような人材を育てる体制を整える考えです。

――最後に、今後の抱負をお聞かせください。

三宅　プラットフォーム系はシステムの根本を支える重要な技術分野ですが、対応できる技術者はグローバルに見ても少ないのが現状です。時間はかかるものの、プラットフォーム系の技術に強い技術者の育成を推進し、蓄積した技術や人材を武器に新しいサービスにつなげていきたいと考えています。また現在（2012年5月）約440名の社員数を、3年ほどで6～700名体制にすると同時に、既に進んでいる社員の多国籍化を一層進め、グローバルなビジネス展開に対応していく考えです。

あくまでもビジネスなので利益を最も重視します。ただし、それだけでは新しいことを始めるための投資ができません。短期間での売上拡大を追求するのではなく、売上の拡大と利益率のバランスおよび、販管費の効率化により出てくるお金をバランス良く投資に回したいと考えています。新しい技術への対応と人材育成を推進し、長期にわたり事業を継続することが目標です。

――本日は有り難うございました。